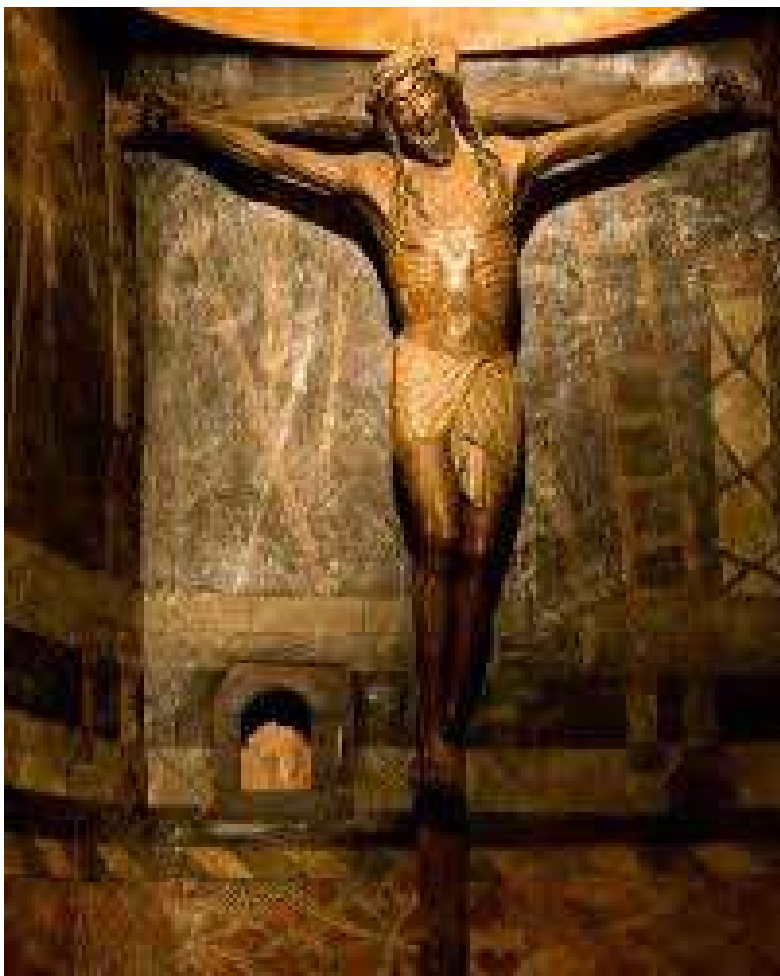


第三週



ザビエル城のキリスト

第三週

十字架につけられる・イエスの死・墓に葬られる

マタイ27,31-61

³¹ このようにイエスを侮辱したあげく、外套を脱がせて元の服を着せ、十字架につけるために引いて行った。十字架につけられる³² 兵士たちは出て行くと、シモンという名前のキレネ人に出会ったので、イエスの十字架を無理に担がせた。³³ そして、ゴルゴタという所、すなわち「されこうべの場所」に着くと、³⁴ 苦いものを混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはなめただけで、飲もうとされなかった。³⁵ 彼らはイエスを十字架につけると、くじを引いてその服を分け合い、³⁶ そこに座って見張りをしていた。³⁷ イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを掲げた。³⁸ 折から、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右にもう一人は左に、十字架につけられていた。³⁹ そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって、⁴⁰ 言った。「神殿を打ち倒し、三日で建てる者、神の子なら、自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」⁴¹ 同じように、祭司長たちも律法学者たちや長老たちと一緒に、イエスを侮辱して言った。⁴² 「他人は救ったのに、自分は救えない。イスラエルの王だ。今すぐ十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう。⁴³ 神に頼っているが、神の御心ならば、今すぐ救ってもらえ。『わたしは神の子だ』と言っていたのだから。」⁴⁴ 一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスをののしった。⁴⁵ さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。⁴⁶ 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。⁴⁷ そこに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「この人はエリヤを呼んでいる」と言う者もいた。⁴⁸ そのうちの一人が、すぐに走り寄り、海綿を取って酸いぶどう酒を含ませ、葦の棒に付けて、イエスに飲ませようとした。⁴⁹ ほかの人々は、「待て、エリヤが彼を救いに来るかどうか、見てみよう」と言った。⁵⁰ しかし、イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。⁵¹ そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、⁵² 墓が開いて、眠りについていて多くの聖なる者たちの体が生き返った。⁵³ そして、イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた。⁵⁴ 百人隊長と一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、「本当に、この人は神の子だった」と言った。⁵⁵ またそこでは、大勢の婦人たちが遠くから見守っていた。この婦人たちは、ガリラヤからイエスに従って来て世話をしていた人々である。⁵⁶ その中には、マグダラのマリア、ヤコブとヨセフの母マリア、ゼベダイの子らの母がいた。⁵⁷ 夕方になると、アリマタヤ出身の金持ちでヨセフという人が来た。この人もイエスの弟子であった。⁵⁸ この人がピラトのところに行って、イエスの遺体を渡してくれるようにと願い出た。そこでピラトは、渡すようにと命じた。⁵⁹ ヨセフはイエスの遺体を受け取ると、きれいな亜麻布に包み、

第三週

⁶⁰ 岩に掘った自分の新しい墓の中に納め、墓の入り口には大きな石を転がしておいて立ち去った。⁶¹ マグダラのマリアともう一人のマリアとはそこに残り、墓の方を向いて座っていた。

第三週

マルコ 15,21-47

²¹ そこへ、アレクサンドロとルフォスとの父でシモンというキレネ人が、田舎から出て来て通りかかったので、兵士たちはイエスの十字架を無理に担がせた。²² そして、イエスをゴルゴタという所——その意味は「されこうべの場所」——に連れて行った。²³ 没薬を混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはお受けにならなかった。²⁴ それから、兵士たちはイエスを十字架につけて、その服を分け合った、だれが何を取るかをくじ引きで決めてから。²⁵ イエスを十字架につけたのは、午前九時であった。²⁶ 罪状書きには、「ユダヤ人の王」と書いてあった。²⁷ また、イエスと一緒に二人の強盗を、一人は右にもう一人は左に、十字架につけた。²⁹ そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おやおや、神殿を打ち倒し、三日で建てる者、³⁰ 十字架から降りて自分を救ってみろ。」³¹ 同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒に、代わる代わるイエスを侮辱して言った。「他人は救ったのに、自分は救えない。³² メシア、イスラエルの王、今すぐ十字架から降りるがいい。それを見たら、信じてやろう。」一緒に十字架につけられた者たちも、イエスをののしった。³³ 昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。³⁴ 三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。³⁵ そばに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「そら、エリヤを呼んでいる」と言う者がいた。³⁶ ある者が走り寄り、海綿に酸いぶどう酒を含ませて葦の棒に付け、「待て、エリヤが彼を降ろしに来るかどうか、見ていよう」と言いながら、イエスに飲ませようとした。³⁷ しかし、イエスは大声を出して息を引き取られた。³⁸ すると、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けた。³⁹ 百人隊長がイエスの方を向いて、そばに立っていた。そして、イエスがこのように息を引き取られたのを見て、「本当に、この人は神の子だった」と言った。⁴⁰ また、婦人たちも遠くから見守っていた。その中には、マグダラのマリア、小ヤコブとヨセの母マリア、そしてサロメがいた。⁴¹ この婦人たちは、イエスがガリラヤにおられたとき、イエスに従って来て世話をしていた人々である。なおそのほかにも、イエスと共にエルサレムへ上って来た婦人たちが大勢いた。⁴² 既に夕方になった。その日は準備の日、すなわち安息日の前日であったので、⁴³ アリマタヤ出身で身分の高い議員ヨセフが来て、勇気を出してピラトのところへ行き、イエスの遺体を渡してくれるようにと願い出た。この人も神の国を待ち望んでいたのである。⁴⁴ ピラトは、イエスがもう死んでしまったのかと不思議に思い、百人隊長を呼び寄せて、既に死んだかどうかを尋ねた。⁴⁵ そして、百人隊長に確かめたうえ、遺体をヨセフに下げ渡した。⁴⁶ ヨセフは亜麻布を買い、イエスを十字架から降ろしてその布で巻き、岩を掘って作った墓の中に納め、墓の入り口には石を転がしておいた。⁴⁷ マグダラのマリアとヨセの母マリアとは、イエスの遺体を納めた場所を見つめていた。

第三週

ルカ 23,26-56

²⁶ 人々はイエスを引いて行く途中、田舎から出て来たシモンというキレネ人を捕まえて、十字架を背負わせ、イエスの後ろから運ばせた。²⁷ 民衆と嘆き悲しむ婦人たちが大きな群れを成して、イエスに従った。²⁸ イエスは婦人たちの方を振り向いて言われた。「エルサレムの娘たち、わたしのために泣くな。むしろ、自分と自分の子供たちのために泣け。²⁹ 人々が、『子を産めない女、産んだことのない胎、乳を飲ませたことのない乳房は幸いだ』と言う日が来る。³⁰ そのとき、人々は山に向かっては、『我々の上に崩れ落ちてくれ』と言い、丘に向かっては、『我々を覆ってくれ』と言い始める。³¹ 『生の木』さえこうされるのなら、『枯れた木』はいったいどうなるのだろうか。』³² ほかに、二人の犯罪人が、イエスと一緒に死刑にされるために、引かれて行った。³³ 「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。³⁴ [そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」] 人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。³⁵ 民衆は立って見つめていた。議員たちも、あざ笑って言った。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」³⁶ 兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱して、³⁷ 言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」³⁸ イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった。³⁹ 十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」⁴⁰ すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。⁴¹ 我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」⁴² そして、「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。⁴³ するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。⁴⁴ 既に昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。⁴⁵ 太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。⁴⁶ イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。⁴⁷ 百人隊長はこの出来事を見て、「本当に、この人は正しい人だった」と言って、神を賛美した。⁴⁸ 見物に集まっていた群衆も皆、これらの出来事を見て、胸を打ちながら帰って行った。⁴⁹ イエスを知っていたすべての人たちと、ガリラヤから従って来た婦人たちは遠くに立って、これらのことを見ていた。⁵⁰ さて、ヨセフという議員がいたが、善良な正しい人で、⁵¹ 同僚の決議や行動には同意しなかった。ユダヤ人の町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいたのである。⁵² この人がピラトのところに行き、イエスの遺体を渡してくれるようにと願い出て、⁵³ 遺体を十字架から降ろして亜麻布で包み、まだだれも葬られたことのない、岩に掘った墓の中に納めた。⁵⁴ その日は準備の日であり、安息日が始まろうとしていた。⁵⁵ イエスと一緒にガリラヤ

第三週

から来た婦人たちは、ヨセフの後について行き、墓と、イエスの遺体が納められている有様とを見届け、⁵⁶ 家に帰って、香料と香油を準備した。

第三週

ヨハネ 19,17-42

こうして、彼らはイエスを引き取った。¹⁷ イエスは、自ら十字架を背負い、いわゆる「されこうべの場所」、すなわちヘブライ語でゴルゴタという所へ向かわれた。¹⁸ そこで、彼らはイエスを十字架につけた。また、イエスと一緒にほかの二人をも、イエスを真ん中にして両側に、十字架につけた。¹⁹ ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上に掛けた。それには、「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」と書いてあった。²⁰ イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がその罪状書きを読んだ。それは、ヘブライ語、ラテン語、ギリシア語で書かれていた。²¹ ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、「『ユダヤ人の王』と書かず、『この男は「ユダヤ人の王」と自称した』と書いてください」と言った。²² しかし、ピラトは、「わたしが書いたものは、書いたままにしておけ」と答えた。²³ 兵士たちは、イエスを十字架につけてから、その服を取り、四つに分け、各自に一つずつ渡るようにした。下着も取って見たが、それには縫い目がなく、上から下まで一枚織りであった。²⁴ そこで、「これは裂かないで、だれのものになるか、くじ引きで決めよう」と話し合った。それは、「彼らはわたしの服を分け合い、わたしの衣服のことでくじを引いた」という聖書の言葉が実現するためであった。兵士たちはこのとおりにしたのである。²⁵ イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。²⁶ イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。²⁷ それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。²⁸ この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、「渇く」と言われた。こうして、聖書の言葉が実現した。²⁹ そこには、酸いぶどう酒を満たした器が置いてあった。人々は、このぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソプに付け、イエスの口もとに差し出した。³⁰ イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。³¹ その日は準備の日で、翌日は特別の安息日であったので、ユダヤ人たちは、安息日に遺体を十字架の上に残しておかないために、足を折って取り降ろすように、ピラトに願い出た。³² そこで、兵士たちが来て、イエスと一緒に十字架につけられた最初の男と、もう一人の男との足を折った。³³ イエスのところに来てみると、既に死んでおられたので、その足は折らなかった。³⁴ しかし、兵士の一人が槍でイエスのわき腹を刺した。すると、すぐ血と水とが流れ出た。³⁵ それを目撃した者が証ししており、その証しは真実である。その者は、あなたがたにも信じさせるために、自分が真実を語っていることを知っている。³⁶ これらのことが起こったのは、「その骨は一つも砕かれない」という聖書の言葉が実現するためであった。³⁷ また、聖書の別の所に、「彼らは、自分たちの突き刺した者を見る」とも書いてある。³⁸ その後、イエスの弟子でありながら、ユダヤ人たちを恐れて、そのことを隠していたアリマタヤ出身のヨセフが、イエスの遺体を取り降ろしたいと、ピラトに願い出た。ピラトが許したので、ヨ

第三週

セフは行って遺体を取り降ろした。³⁹ そこへ、かつてある夜、イエスのもとに来たことのあるニコデモも、没薬と沈香を混ぜた物を百リトラばかり持って来た。⁴⁰ 彼らはイエスの遺体を受け取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従い、香料を添えて亜麻布で包んだ。⁴¹ イエスが十字架につけられた所には園があり、そこには、だれもまだ葬られたことのない新しい墓があった。⁴² その日はユダヤ人の準備の日であり、この墓が近かったので、そこにイエスを納めた。

第三週

靈操

297 十字架の秘義について

ヨハネ 19・23-37 (マタイ 27・35-36、39-52、マルコ 15・24-38 ルカ 23・34-46) 参照

要点第一

十字架上で七つの言葉を語られた。自分を十字架につけた人々のために祈られた。強盗を赦された。聖ヨハネを聖母に、聖母を聖ヨハネに委ねられた。「『私は渴く』」と大声で言い、彼らは胆汁を混ぜた酸いぶどう酒を彼に与えた。イエスは、見捨てられたと言い、「『全てはなし遂げられた』」、そして、「『父よ、私の霊をみ手に委ねます』」と言われた。

要点第二

太陽は光を失い、岩が裂け、墓が開き、神殿の垂れ幕が上から下迄真二つに裂けた。

要点第三

彼らはイエスを冒涇して、「『神殿を打ち壊す者、十字架から下りて来い』」と言った。彼らはイエスの衣服を分けた。槍で突き刺された主の脇腹から血と水が流れ出た。

298 十字架からおん墓迄の秘義

ヨハネ 19・38-42 (マタイ 27・55-66、マルコ 15・40-47、ルカ 23・49-55) 参照

要点第一

悲しみに満ちた聖母の前で、主はヨセフ①とニコデモによって十字架から取り除けられた。①アリマタのヨセフ。

要点第二

御体は墓に運ばれ、香油を塗られ、葬られた。

要点第三

番兵がおかれた。